

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 13 日

評価対象事業		評価者	環境施設課長	谷川 克也
環境-12	実施事業	ダイオキシン類削減対策施設整備事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課 環境施設課
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	環境汚染の防止

1 事業の目的

対象	名越クリーンセンター等
意図	処理施設の整備及び適正管理を図るため。
効果	一般廃棄物の適正処理が図られる。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

・名越クリーンセンター周辺環境調査(大気環境調査)を実施した。
---------------------------------

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)決算		02年度(2020年度)当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,308人	81,763世帯	176,436人	82,444世帯	176,608人	83,058世帯	・各年3月31日(住民基本台帳)
事業の対象者数							
運営資源状況	決算値(千円)	2,316	1,848	当初予算(千円)	2,547		
	国県支出金			国県支出金			
	地方債			地方債			
	その他			その他			
	一般財源	2,316	1,848	一般財源	2,547		
	人員配置数	0.2	0.2	人員配置数	0.2		
	人件費(千円)	1,592	1,649	人件費(千円)	1,620		
事業経費運営	総事業費(千円)	3,908	3,497	総事業費(千円)	4,167		
	市民1人当りの経費(円)	22	20	市民1人当りの経費(円)	24		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有 効 性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
		△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	△-協働未実施
		協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒				事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	名越クリーンセンターでの焼却を行う上で地元住民と締結している協定書の中で、焼却施設周辺への影響を確認することとしており、継続して周辺環境調査を行う必要があるため現状維持とした。		
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする				
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する				

総評(評価に対する考え方、根拠等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺環境調査は、焼却施設周辺への影響を確認するため必要な調査であり、引き続き名越クリーンセンター周辺の土壌及び大気調査を実施し、周辺環境に影響のないことを確認していく必要がある。</li> <li>・名越クリーンセンターが法令に基づき行っている環境調査と併せて行うことは可能であるが、削減効果は若干の費用と事務の削減に留まる。</li> </ul>
-------------------	--

令和元年度(2019年度)事業実施にあつての課題(前年度未解決の事項を含む)	・引き続き、名越クリーンセンター周辺地域の土壌及び大気環境調査を実施し、周辺環境に影響のないことを確認する必要がある。	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	・名越クリーンセンター周辺地域の土壌及び大気環境調査を実施し、周辺環境に影響のないことを確認した。	<input checked="" type="checkbox"/> 解決 <input type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	・なし(現在、環境基準に全て適合しているため)	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名								
他市実績								

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方								
----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	環境基準に適合					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
周辺環境へ影響を及ぼすことがないように焼却施設の運転管理を行っていることを確認する必要があるため。	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
	実績値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	例年、調査結果は環境基準値に適合しており、焼却施設の運転が周辺環境に影響を与えていないことを確認している。									
-----------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--